

NIFS-AP News



◆教員からのメッセージ

◆新教育課程の理解度：指導力に加え、研究力を高める！ 2021.10

VOL.10

教員から体育大生へのメッセージ

「知る」楽しさ、「分かる」楽しさ、「学ぶ」楽しさ



スポーツ人文・応用社会科学系

梅 ちか子 講師

研究キーワード

体育：保健等の授業づくり
学修成果・評価

保健体育科教育関連科目やダンスの授業を担当している梅（かこい）ちか子です。体育や保健等の授業づくりや学修成果・評価等を、研究・教育のテーマにしています。

私が小学校に入学する前、アニメ「ドラえもん」を見ていた際、いつものようにのび太くんが、“宿題が嫌だ～、勉強なんて大嫌いだ～”，とドラえもんが、“何とかして～”と泣きついている場面がありました。その時、一緒にテレビを見ていた母が、ポソッと「本当は勉強って楽しいのよ。新しいことを知ったり、知らなかったことが分かったりすることって、結構面白いのよ。」と独り言のように呟きました。当時は「ふん」としか感じなかったのですが、小学校に入学し、授業が始まると、事あるごとに母のその言葉が頭に浮かび、「知る」こと、「分かる」こと、「学ぶ」ことが「楽しい」と思えるようになりました。

もちろん、苦手な教科もありました。受験勉強も本当に辛かったです。いつも勉強することが楽しいわけではありませんが、それでもどこか自分の根っこの部分に、知って分かって学ぶことは「楽しい」ことだという感覚があります。特に大学は、自分の興味・関心に従って、ひたすら探求できる貴重な場所です。知的な刺激に溢れたこの場所が私は大好きです。皆さんも、是非、大学で「知る」「分かる」「学ぶ」楽しさを実感してください。

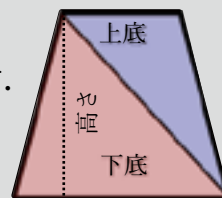
ちなみに母は、現在、「私、そんなこと言ったっけ?」と、まるで覚えていません……。

「知恵と知識 ～2つの三角形と魔法の呪文～」

主にスポーツバイオメカニクス関係の授業を担当している村田宗紀です。研究では、様々な身体運動の機序解明や、分析手法の開発などを行っています。

さて、皆さんは小学校で台形の面積の求め方を学んだと思います。台形は三角形（青色と赤色）の組み合わせなので「赤い三角形の面積＋青い三角形の面積＝（上底×高さ÷2）＋（下底×高さ÷2）＝（上底＋下底）×高さ÷2」となることがわかります。つまり、三角形の面積計算ができれば台形の面積計算もできます。このことに気が付いた瞬間は、私にとって出所がよくわからない魔法の呪文（ジョウテイタスカテイ…）が、確かなイメージ（2つの三角形）と結びついた瞬間であり、とても記憶に残っています。そして、苦勞して覚えた魔法の呪文は忘れても、このイメージは今でも消えません。

ここで言いたいことは、理解せずに何かを覚えることは苦行ですし、時間と共に知識も失われるでしょう（投資対効果最悪です）。一方、理解することは楽しく、一生残る知恵になるということです。近年では、インターネットの普及に伴い、“誰でもいつでもアクセスできる知識”に価値が見出しにくく、他の誰かができないことを実現する知恵が求められているのかもしれませんが、大学は教育研究機関であり、答えの定まっていない問題に得られた知識を前提に議論することで、知恵を得るのに最適な場です。是非、どんな課題も答えを他者に求めるのではなく、自分なりの解釈や主張を一生懸命考えてみてください。そして、皆さんの大学生活が、卒業後のはるかに長い人生を豊かにする知恵を得る機会になることを願っています。



スポーツ生命科学系
村田 宗紀 講師

研究キーワード

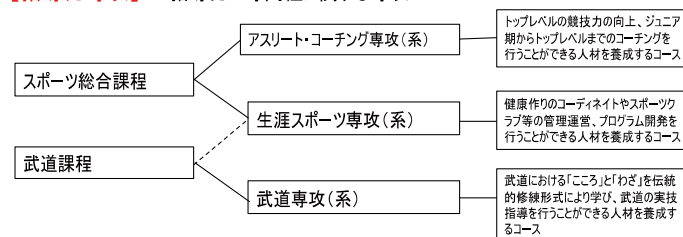
スポーツバイオメカニクス
動作分析 シミュレーション
分析手法の提案

新教育課程の理解度：指導力に加え、研究力を高める！

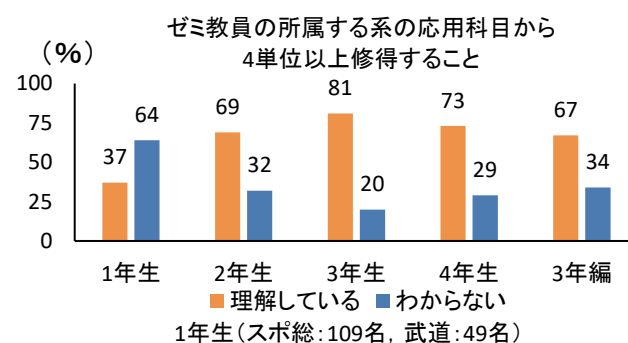
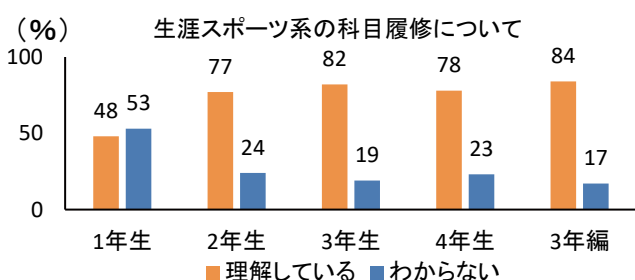
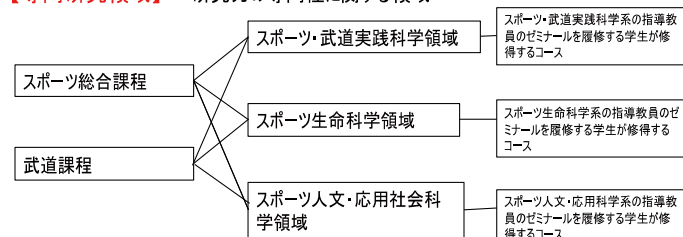
■本年4月より教育課程が、本学の教育研究のミッション、学修の現状、将来を見通して7年ぶりに変更されました。大きな変更のポイントは、これまでの専攻科目を中心とした「指導力専攻」によるスポーツ等の指導力の修得に加えて、応用科目・ゼミナール科目を中心とした「専門研究領域」による研究力の専門性を高めることを強化しました。学生は「指導」と「研究」において、自らが目指す「専攻」と「領域」を選択し、修めることが明確になりました(右図)。

■この変更に伴う科目履修について、2021年前期にどれほど理解されているかについて調査したところ、指導専攻に関わる「生涯スポーツ系の履修(左下図)」と研究領域に関わる「応用科目の履修(右中図)」においての理解不足が認められました。

【指導力専攻】…指導力の専門性に関する専攻

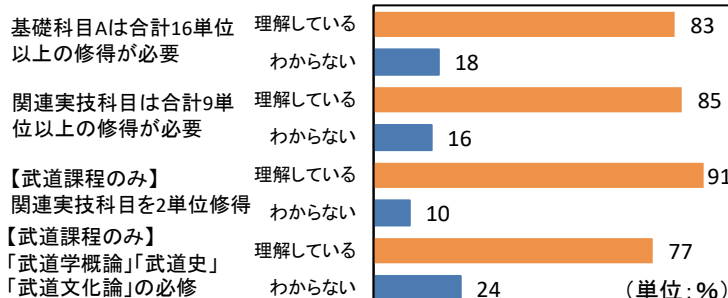


【専門研究領域】…研究力の専門性に関する領域



■1年生の調査(右図)からは、2割前後の学生で必要な単位数や科目についての理解不足があるようです。大学としては、全学生が理解できるように、オリエンテーションのあり方や説明をさらに改善する必要があるといえるでしょう。

★研究力も高めようとしている新教育課程では、授業以外にも学修の支援をするために「**体育・スポーツ教育強化プログラム**」を立ち上げました。興味のある人は教務課へ相談してください。



半年間、お世話になりました

2021年4月から半年間、教育企画・評価室で業務に携わらせていただきました。本業務では、教育の質保証に向けて、学修行動およびその成果の可視化に取り組んで参りました。これらの業務を通して私は、学生の皆さんが学業に集中できる環境が整っているのは多くの先生や職員の方々の支援のおかげであることに気がつきました。

学生の方は、本学の環境を最大限活用し、目標を達成できるようにして欲しいです。私事ですが、9月からは本学のスポーツ・実践科学系の講師(コーチング学(自転車競技))を務めることになりました。教育企画・評価室からは離れますが、鹿屋体育大学の学生の教育・研究に貢献できることを楽しみにしています。

今後ともよろしくお願ひします。



教育企画・評価室
特任助教 山口 大貴

<発行>

鹿屋体育大学 教育企画・評価室

〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地
大学院棟1階

TEL&FAX: 0994-46-5082

E-MAIL: kyoumu-ap@nifs-k.ac.jp

<http://ap.nifs-k.ac.jp/>

<企画・編集>

青柳唯・山口大貴・岡田あゆみ・金高宏文

あとがき(10月末退職のご挨拶)

2018年11月から約5年間、教育企画・評価室で勤務させていただきました岡田と申します。普段は皆さんにお目にかかることはなかったのですが、PROGやSCCOTのテスト、NIFSpass等で関わってくるお母さん的な立場の人です。笑(しつこいメール等すみませんでした...)。

大学教育再生加速プログラム(AP)というプロジェクトで学修行動の可視化、皆さんが学びを得やすい環境を考えたり、ニューズレターを作ったり、また何よりSCCOTのテスト開発・運営に携われたことは、私にとって特別な経験でした。

多岐にわたる仕事を通して皆さんの成長を間近で感じることができ、本当に幸せです。これからも家族とともに1番のファンとして皆さんを応援しています。